

医療放射線の被ばくに関するQ&A

Q 妊娠中に受ける胎児への被ばくの影響について教えてください。

A 一般的に妊娠初期（受精～8週）の胎児は放射線の影響を受けやすく注意をする必要があります。しかし、かりに妊娠中の画像検査によって胎児が被ばくを受けた場合でも、特殊検査を除き被ばく線量は十分少ないため胎児への影響はまずありません。さらに下腹部以外の検査であれば問題ありません。妊娠の可能性のある方は、最良の手立てをした上で画像検査を行いますので、検査を受ける前に医師または診療放射線技師にご相談下さい。

Q 医療被ばくすると不妊になったりするのですか？

A 被ばくによる不妊は、しきい線量とよばれる「影響の発生する最小の放射線量」を超えると起こるといわれています。医療被ばくにおいては、そのしきい線量よりもはるかに低い線量が用いられているため不妊を引き起こすことはありません。

Q 小児の放射線検査による体への影響はあるのですか？

A 放射線を利用した画像検査での小児への身体的影響は問題ないものと考えられます。しかし、一般的に小児は成人よりも放射線に対する感受性が高く、被ばく線量を十分考慮しなければなりません。したがって、小児の放射線検査では被ばく線量がガイドライン値をこえないように特に配慮がなされています。

画像検査を受けられる方へ

放射線を利用した画像検査を
安心して受けていただくために

私は診療放射線技師のレンコと申します。彼は後輩のレント君です。病院や診療所などで受ける放射線を使った検査の被ばく（放射線を体に受けること）についてご説明いたします。

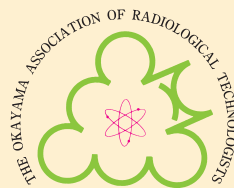


レンコさん



レント君

レントと申します。放射線はしっかり管理してこそ役立ちます。そのためには、特別な知識と技術を持った専門家が必要です。診療放射線技師は、医療分野の放射線のスペシャリストなのです。



編集 公益社団法人 岡山県診療放射線技師会

監修 岡山大学大学院 保健学研究科 准教授 澁谷光一
川崎医療短期大学 放射線技術学科 准教授 北山 彰